

兵庫県保険医協会 但馬支部ニュース

No. 110

2009年5月5日発行

発行 兵庫県保険医協会但馬支部
連絡先 〒668-0373 豊岡市但東町久畑1 2 6
高橋診療所 TEL/0796-55-0036 FAX/0796-55-0008

第69回胸部X-P読影と紹介症例検討会

「病診連携、模索し20年」 ～開業医、勤務医ら20人参加～



当日は多数の症例が検討された

但馬支部は、3月26日（木）午後7時から、公立八鹿病院で「第69回胸部X-Pと紹介症例検討会」を開催し、会員や病院勤務医、研修医など20人が参加した。

1989年から20年来続けている「胸部X-P読影と紹介症例検討会」が、まもなく開催70回目を迎える。副支部長の森和夫先生の寄稿文を紹介する。（4月15日付兵庫保険医新聞に掲載）

（2面につづく）

（1面からつづく）

寄

稿

20数年前、私が但馬に来てしばらくたったころ、公立八鹿病院の若い研修医であったDrたちと、一杯飲みながら議論する機会があった。ちょうどその中に、癌センターへの外部研修を終えて但馬に帰ってこられたばかりの片山覚先生（現八鹿病院副院長・診療内科部長）がおられ、次のような提案があった。「研修中に癌センターの指導医より『地方の病院に来る肺がん患者はすでに手遅れが多い。最初に患者を診察する開業医の診断能力を上げなければならない』と。だから一緒に勉強会を開催しないか」と。

もともと私は一般外科医で、内科診断学を高めたいと思っていた矢先だったので、酔った勢いも手伝い、すぐに開業医と勤務医の合同研究会を開く約束をした。早速始めてはみたが、開業医の持参するX-Pフィルムは、そのほとんどが読影に耐えられるものではなかった。どうしたらいいレントゲン写真が撮れるか、病院勤務医も放射線技師さん任せのため、開業医にアドバイスできない。

当時、出石病院で活躍されていたK放射線技師を招聘して、放射線の基礎から撮影、現像、定着など数回のシリーズでいい写真を撮るための研究会を重ねた。わが森医院も開業後まだ間がなかったが、導入していたX線管球をグレードアップし、高圧発生装置を最新のインバータ式に買い換えた。かなりの出費であったが、病院の写真に負けないぐらい診断能力の高いX-Pフィルムで症例提示できるようになった。

年3回の開催であるが、次回で第70回を数える。一度も休んだことがないのは私と片山先生だけである。本当に先生の努力には感謝、感謝である。

さらに、最近この会は思わぬ方向にも発展しようとしている。私たち開業医にとって、この会は診断技術の向上や最新の医療を学ぶだけに止まらず、新しい病診連携の模索の場となった。都市部も地方も病院勤務医の減少に歯止めがかからない。辞めていく原因については、勤務医側からみると過酷な勤務体制、医療訴訟への危惧、モンスター患者の増加、女性医師だけが抱える問題ではないが育児や子弟の教育、両親の病気や要介護状態などがあげられる。だが、厚労省もマスコミも気づいていないが、私は「チーム医療の崩壊」に問題の根源があると考える。

「チーム医療」の重要性は以前から指摘されてはきたが、それは医療を受ける患者側からの要求であった。しかし、病院勤務医が高いモチベーションと高貴なプライドを持ち続け、「立ち去り型サボタージュ」する必要がなくなる「新しいチーム医療」。勤務医たちが求めているものは、高い報酬でもなければ長期休暇でもない。医師は常に新しい



地元養父市のケーブルテレビが取材

（3面につづく）

(2面からつづく)

医学、高度な医療への挑戦を本能的に望んでいる。医師として人間として、高い報酬より学び教えることを求めているのである。

X-P読影会も、マンネリ化のためか途中で参加者が減り何度もやめてしまおうかと思ったが、片山先生の熱意と故松下六良先生、故清田茂俊先生や新田誠先生からの励ましをいただき、継続させることができた。お陰で開業医も診断能力が向上し、新医師研修中の病院研修医にアドバイスできるまでになった。

2年前から、養父市医師会の協力で地域開業医が勤務医の応援に八鹿病院嘱託医として登録し、交代で日曜日救急外来を担当し、地方の医療崩壊ストップの役割を担っている。朝8時からノンストップで夕方6時までの勤務は還暦を過ぎた体にはかなりきつい。最新の医療機器に触れられる喜び、難しい症例に勤務医と一緒に対処できた時の喜びは何にも代えがたいものがある。

「医療崩壊ストップ」は「新しいチーム医療」で!!皆さんもできるところからやりませんか。

【養父市・但馬副支部長 森 和夫】

～夜遅い時間帯ですが、先生方のご参加お待ちしております～

第70回胸部X - P読影と紹介症例検討会

日 時 6月25日(木) 午後7時～
会 場 公立八鹿病院 2階研修ルーム
アトバ イー 公立八鹿病院 片山 覚 先生 他
(軽食あり、参加費 100円)

※お問い合わせは、担当事務局 足立(TEL: 078-393-1807)まで

『届出医療の活用と留意点 —施設基準・人員基準の手引き』

B5判 900ページ 2008～2009年度版
定価 5,000円(送料込)



施設基準の届出の留意点をわかりやすく解説/届出にあたっての必要な計算式、適時調査の指摘事項、立入検査要綱を掲載/入院外・入院・入院時食事療養の届出について必要書類等をそれぞれ掲載。

『在宅医療点数の手引 —診療報酬と介護報酬』

B5判 570ページ 2008年度改定版
会員特価 2,000円(送料別)



在宅医療点数に関わる対象患者や算定要件などを図表やフローチャートなどでわかりやすく解説。レセプト請求事例も多数掲載。

ご注文は、☎078-393-1803 研究部まで

兵庫県保険医協会但馬支部

2009年介護報酬改定研究会

4月から介護報酬が改定されました。今回の改定は、介護労働者の劣悪な処遇改善ということで3回目の改定で初めて引き上げられることになりましたが、わずか3%ではすべての介護従事者の処遇改善には程遠く、逆に施設間の格差が広がることが懸念されています。協会・保団連では更なる介護報酬の引き上げや要介護認定基準の変更によって要介護度が低くなることのないように要求しています。

保団連発行「医療系介護報酬改定のポイント」をテキストに、居宅療養管理指導費、訪問看護費・訪問リハビリテーション費、通所リハビリテーション費、介護療養施設サービス費等の医療系サービスの改定内容について解説します。

日 時 5月16日(土) 午後3時～5時
会 場 **じばさん但馬2階 第1交流センター**
豊岡市大磯町1番79号 TEL 0796-24-5551
講 師 保険医協会但馬支部 下山 均 先生
定 員 50人 (定員になり次第締め切り)

※「医療系介護報酬改定のポイント」(1部 3,000円)は、当日頒布します。
冊子のみのご注文も受け付けています。下記でお申し込み下さい。

Fax 078-393-1802

介護報酬改定研究会参加申込書(冊子注文書)

参加人数 () 人

※会場略図送付希望の場合は → 要 Fax()

※「医療系介護報酬改定のポイント」冊子のみ注文 冊

地区 _____ 医療機関名 _____

ご担当者名 _____

主な提供サービス名 _____